

IV. 学生支援

1. 入学に関する支援

(1) 建学の精神・教育理念及び教育の目的・目標の明示

受験生が本学の基本理念である建学の精神、教育方針を十分理解し、かつ、入学者選抜方針及び多様な選抜方法を理解できるよう、以下の資料等を受験生及び高等学校に示すとともに、受験生専用ホームページに掲載している。

1) アドミッションポリシー

a. 情報処理学科

ICTで創りたい人、頼りたい人をお待ちしています！

- パソコンを使いこなせるようになりたい人
- インターネット、携帯電話などのモバイル機器、デジカメなどのデジタル家電等の新しい流れに関心のある人
- パソコンやインターネット等の仕組みや新しい技術を深く学んでみたい人
- コンピュータグラフィックスやアニメーション・動画作成に関心のある人
- オフィスや医療事務の現場で最先端のICT機器を活用して活躍したい人
- 学んだ知識を活かし四年制大学への進学を希望する人

b. 国際文化学科

積極的に外に向けて発信したい人を待っています！

- 語学力を活かし、より価値のある人生を歩みたいと願う人を歓迎します
- 観光ビジネス分野で夢を実現したいと願う人を歓迎します
- スポーツ活動において、マネジメントの重要性に共鳴している人を歓迎します
- 本学での学修を活かし、さらなる学びを考えている人を歓迎します

2) 「CAMPUS GUIDEBOOK」

2016年度入学生に対し、本学の教育理念・目的・目標を理解してもらうため刊行した(装丁はA4判、34頁)。2016年度版は、『「好き」からつながる「未来」がある』を意識させ、「LINE」という文字をもじり「LIKE」と表し「好きを伸ばせ」を表題に、学科・コース紹介及び本学の教育に関する取組みについて及び就職・編入学・資格取得サポート体制についての説明。また、卒業後の進路及びキャンパスライフ等を掲載した。

3) 募集要項

2016年度入学生のために2015年度に発行した募集要項では、本学入学者選抜方針及び多様な選抜方法を十分理解してもらうため刊行した(装丁はA4判、40頁)。下記の各入試に関して「入学試験概要」、「試験日程」、「選抜方法」、「出願資格」、「出願手続」、「出願書類」、「出願上の注意」、「合否発表」等を掲載した。

また、本学入学受入方針として募集要項の後半部分に「CORE」として掲載するようにした。

なお、付属推薦入学試験は学園内共通の募集要項として、法人で別に作成し配布している。

4) オープンキャンパス及び学校見学

2016年度より、入学生の募集を停止したため、オープンキャンパス及び学校見学会は開催しなかった。

(2) 広報・入試事務

1) 入試広報業務

2017年度入学生の学生募集停止を受け、入試広報業務は行わなかった。

2) 入試業務

同上

3) 実施経過

同上

4) 選抜方法

同上

5) 入試結果

同上

(3) 入学手続き者への対応

2016年度より、入試広報業務を行わなかったため、入学手続き者は存在しなかった。

(4) 入試業務の的確性と現状評価について

上記の理由により、評価できない。

2. ガイダンス・オリエンテーション

(1) 入学者に対する学修・学生生活のためのガイダンス

2017年度は、学生募集停止により入学生はいないため、学生生活ガイダンスは在学生のためのガイダンスのみ実施した。

(2) 在学生に対する定期的なガイダンス

1) 春学期ガイダンス

4月3日(月)～4日(火)まで実施、また2年生のみの実施であったため、卒業延期者ガイダンスから全体ガイダンス・2年次生オリエンテーション・学科別ガイダンス・指導教員別ガイダンス・進路ガイダンス・健康診断等を2日間でコンパクトに実施した。

2) 秋学期ガイダンス

例年より1ヶ月早い8月25日(金)に実施した。また春学期同様2学年のみであったため、全体ガイダンス・学科別ガイダンス・指導教員別履修指導・事務連絡・進路ガイダンスをコンパクトに実施し、最後に避難訓練を行った。

3. 学生生活支援体制

学生生活を有意義で充実させるために東海大学福岡短期大学では、学生生活に対応した組織が整備されている。事務室及び学生支援室が学生生活全般に関する相談を始めとして、学生に対する各種サービスの窓口となっている他、1年次からのゼミ制と指導教員制度を導入していることにより、学修上の問題や学生生活が円滑に営まれるよう生活全般にわたってきめ細かな指導と助言を行っている。また、健康推進室には保健師を、学生相談室には専門のカウンセラーを配置し、心身共にケアが行えるよう配慮している。

課外活動においては、学生の自主的な組織として、自治会活動を行う『学友会』、またスポーツや文化芸術を通じて心身の錬磨に努め活動する『有志会』があり、自主的な活動を行っている。

(1) 学生生活

1) 各学生団体主催行事

a. BBQ大会

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 4月26日(水) 17:10～18:30
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 3号館1階食堂
- (c) 参加者 約40名

(d) 内 容 バーベキュー会（食事会）

b. スポーツ大会

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 6月7日（水）17：10～19：00
(b) 場 所 東海大学福岡短期大学 コモンホールアリーナ
(c) 内 容 ドッジボール・ソフトバレー

c. シェードアイス

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 8月25日（金）12：00～13：00
(b) 場 所 東海大学福岡短期大学 3号館2階学生ラウンジ
(c) 参加者 約40名
(d) 内 容 カキ氷を振る舞う

d. ハロウィンパーティー

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。なお、当行事は建学祭の代替企画と位置づけられた。

- (a) 日 時 11月1日（水）17：30～19：30
(b) 場 所 東海大学福岡短期大学 3号館2階学生ラウンジ
(c) 参加者 約60名（学生・教職員）
(d) 内 容 立食パーティー、レクリエーションゲーム他

2) 法人主催の学生行事

a. 第31回東海大学短期大学（部）スポーツ大会

- (a) 主 催 学校法人東海大学
(b) 目 的 「建学の精神」に則り、各短大の代表される学生が一致団結して、スポーツを通じて学生相互の交流・親睦と技術向上を図り、学園の発展に自らが歴史を作る一員であることの意義を学ぶことを目的とする。
(c) 実施日時 9月1日（金）
(d) 成 績 総合 2位

対抗別	種目	男女別	短期大学部		福岡短大		医療短大	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点
クラブ対抗の部	バレーボール	女子	1	-	4	-	2・3	-
	バスケットボール	女子	1	-	×	-	2	-
	バドミントン	女子	3	-	1	-	2	-
	硬式テニス	混合	3	-	1	-	2	-
	フットサル	男子	1	-	3	-	2	-
	フットサル	女子	2	-	×	-	1	-
校舎対抗の部	メディシンボール	混合	2	8	1	12	2	8
	大縄跳び	混合	1	12	2	8	3	5
	綱引き	混合	1	12	2	8	3	5
校舎対抗得点 1位・・・12点 2位・・・8点 3位・・・5点			1	32	2	28	3	18

(e) 実施場所 東海大学湘南校舎

- (f) 引率者
1. 神山 高行（学長・大会運営委員）
 2. 岩重 將成（事務室長・総務責任者）
 3. 北濱 幹士（大会競技責任者）
 4. 岡本 武志（大会競技副責任者）
 5. 森田 博文（事務室長補佐・総務副責任者）

(g) 競技名及び学生参加者氏名 (○囲み数字は各種目の責任者)

1) バレーボール (女子)・校舎対抗 (7名)

①	前田 愛佳	B6IC1040	5	中野 侑華	B6IC1027
2	岩下 樹利亜	B6IC1005	6	宮崎 悦子	B6IC1042
3	河村 文美華	B6IC1012	7	若松 祐希	B6IC1045
4	倉光 瑠菜	B6IC1015			

2) バドミントン (女子)・校舎対抗 (3名)

①	橋本 菜都	B6IM1012	3	山下 綾乃	B6IM1014
2	市橋 歩	B6IC1046			

3) 硬式テニス (混合)・校舎対抗 (5名)

①	平井 咲歩	B5IC1047	4	橋本 菜都	B6IM1012
2	鶴林 健	B5IM1012	5	山下 綾乃	B6IM1014
3	馬場 智世	B6IC1034			

4) 硬式テニス (混合)・校舎対抗 (5名)

①	後藤 廉	B6IM1007	4	大見謝 周子	B6IC1008
2	可徳 良平	B6IM1004	5	堀 妃奈	B6IC1039
3	蔵野 涼	B6IM1006			

5) フットサル (男子)・校舎対抗 (14名)

①	花田 悠汰	B6IC1033	8	田中 秀平	B6IC1024
2	伊藤 和輝	B6IC1003	9	永島 幸人	B6IC1029
3	井上 泰平	B6IC1004	10	橋口 涼介	B6IC1031
4	緒方 海青	B6IC1009	11	橋本 龍弥	B6IC1032
5	嘉村 昂大	B6IC1011	12	有木 雄大	B6IM1001
6	熊野 佑樹	B6IC1014	13	西住 優太	B6IM1011
7	嵯峨根 凌太	B6IC1021	14	赤間 侃士	B6IM1018

(h) 参加日程

・ 8月31日 (木)

- 8:00 福岡空港国内線1階 全日空カウンター前集合
 9:00~10:40 ANA 244便にて東京羽田空港へ移動
 10:40~11:00 公共交通機関乗り場まで移動
 11:00~12:45 東海大学貸切バスにて湘南キャンパスへ移動 (南門)
 12:45~13:00 宿泊所の6号館各室に荷物を置き、寝具を運び込む
【学友会役員・各クラブ代表者以外】
 13:00まで 昼食 (8号館1階食堂) 会場へ移動 (3短大懇親会参加者除く)
 13:00~13:40 昼食 (8号館1階食堂)
 13:40~16:50 設営担当外の学生はクラブ毎に会場チェック及びミーティング
 自由時間 (キャンパス見学など)
 16:50~17:00 夕食 (コムスクエア2階別室) 会場へ移動
【学友会役員・各クラブ代表者】
 13:00まで 各校舎学生との3短大懇親会 (コムスクエア2階別室) 会場に移動・待機
 13:00~14:30 各校舎学生との3短大懇親会 (コムスクエア2階別室)
 14:30~16:00 学友会役員・各クラブ代表者は競技会場設営
 16:00~17:00 自由時間・夕食 (コムスクエア2階別室) 会場へ移動
 17:00~18:00 夕食 (コムスクエア2階別室)
 夕食後、宿泊所へ
 18:00~22:00 休憩・ミーティング・シャワー (総合体育館)
 22:00 消灯・就寝

・ 9月1日 (金)

- 6:30 起床及び支度 (着替えは済ませる)
 7:15 6号館前集合、食堂まで移動
 7:30~8:00 朝食 (8号館1階食堂)

8:00～8:10	移動
8:10～8:50	ミーティング、競技準備
9:00	総合体育館集合、
9:10～9:30	開会式
9:40～13:45	クラブ対抗競技
14:00～15:30	校舎対抗競技
15:30～16:00	競技終了後、会場片付け
16:00～16:30	閉会式・表彰式
16:30～17:30	休憩及びシャワー（総合体育館）
17:30～18:30	福岡短大懇親会（コムスクエア2階別室）
18:30～22:00	懇親会后、宿泊所へ（休憩・ミーティング）、シャワー（総合体育館）
22:00	消灯

・9月2日（土）

6:30	起床及び支度、全体清掃
7:15	6号館前集合、食堂まで移動（荷物は持つ）
7:30～8:00	朝食（8号館1階食堂）
8:00～8:05	一時解散前説明
8:05～15:30	8号館前にて一時解散、自由行動
16:15	羽田空港第二ターミナル2階 全日空カウンター（時計台2・3の間）集合
17:00～18:50	ANA265便にて福岡へ
19:15	福岡空港解散

(i) 宿泊先

東海大学湘南キャンパス6号館（学生及び森田・岡本）

東海大学松前会館（神山・北濱・岩重）

[住所] 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1 [電話] 0463-58-1211（代表）

（2）学友会

大学生活では、正課の授業の他に課外活動を行う組織を「学友会」と称し、全学生が参加して行う自治活動と有志が集まって行うサークル活動とがあり、学生自身が積極的に参加し自主的に活動運営されている。先に記載した学生団体主催行事はこの学友会を中心として運営された。

1）自治組織

a. 学友会の機構

- (a) 学生総会
- (b) 代議委員会（クラス・有志代表）
- (c) 学友会
 - a) 執行委員会
 - b) 監査委員会
 - c) 有志会（体育系クラブ・文化系クラブ）
- (d) 臨時委員会
 - a) 建学祭実行委員会
 - b) 卒業記念行事委員会
 - c) 選挙管理委員会

b. 学友会役員

募集停止及び閉学に伴い、学友会役員の改選は行われなかった。役員は下記のとおり。

- (a) 執行委員長 河村 文美華 (B6IC1012)
- (b) 執行委員 岩下 樹利亜 (B6IC1005)
- 桑原 奈菜 (B6IC1017)
- 小水流 香琳 (B6IC1018)
- (c) 監査委員 儀保 碧 (B6IC1013)

c. 学生団体（有志会）

<体育系クラブ>

	団体名（区分）	担当教員	学生責任者（学生証番号）
1	テニス（クラブ）	岩重 将成	後藤 廉（B6IM1007）
2	サッカー（クラブ）	岡本 武志	花田 悠太（B6IC1033）
3	バドミントン（クラブ）	宮川 幹平	橋本 菜都（B6IM1012）

<文化系クラブ>

	団体名（区分）	担当教員	学生責任者（学生証番号）
1	コンピュータ・ネットワーク（クラブ）	八尋 剛規	宮崎 耀智美（B6IM1013）
2	中国文化研究会（クラブ）	チョウ・アンナ	藏野 涼（B6IM1006）

(3) 奨学・援護

1) 奨学金

本学では、経済的な援助を必要とする学生のために、本学独自の奨学金（給付）・学園独自の奨学金（給付）日本育英会奨学金及び地方公共団体等によるものを取り扱っている

【奨学金一覧】

名称	内容	採用条件
東海大学福岡短期大学 遠隔地奨学金（給付）	12万円（年額） 各学年で10名以内	修学意欲旺盛な学生で沖縄県、離島出身者に奨学金の給付を行う。
東海大学福岡短期大学 資格取得奨励奨学金 （給付）	第1種：5万円 第2種：3万円 第3種：1万円 若干名	在学中に資格取得及び検定試験に合格し、顕著な実績を収めた者に奨学金の給付を行う。
東海大学福岡短期大学 優秀学生奨学金（給付）	20万円（入学1年後） 各学科1名（計2名）	入学後、勉学に励み、学科内で極めて優秀な成績を修め、且つ奨学金に値する人物として評価される者に奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 建学記念論文（給付）	最優秀賞：20万円 優秀賞：10万円 入選：5万円 若干名	建学の精神を未来へ継承発展させていくための人材育成をはかるもので、優秀な論文を書いた者に奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 自己研鑽奨学金（給付）	個人：30万円 団体：10万円～50万円 若干名	文化活動・スポーツ活動・社会活動・ボランティア活動その他の自己研鑽活動をしている個人または2名以上のグループに奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 留学生奨学金（給付）	授業料の70% 若干名	人物、学業成績共に優秀な外国籍の私費留学生に奨学金を給付。
松前重義記念基金 短期大学（部）派遣留學生奨学金（給付）	短期留学：2万円 長期留学：6万円	教育による人材育成と相互理解を促進するために本学園と国際交流協定を締結している教育機関へ派遣を行う者。
日本学生支援機構 奨学金（貸与）	第1種（無利子） 自宅：53,000円 自宅外：60,000円	第1種：評定平均値3.5以上 第2種：評定平均値平均水準以上 学業・人物共に優れかつ健康であ

	第2種（有利子） 3万円、5万円、8万円、10万円、12万円を選択できる	って、経済的理由により就学が困難であると認められる者を推薦し、貸与される。
地方公共団体奨学金	給付・貸与金額等は団体によって異なる	地方公共団体等で設けている制度に準じて採用される。

【採用状況一覧】

名称	内容	採用者合計人数
東海大学福岡短期大学 遠隔地奨学金（給付）	[2年生] 情報処理学科 0名 国際文化学科 3名	4名
東海大学福岡短期大学 資格取得奨励奨学金（給付）	[2年生のみ] 【第1種】 情報処理学科 1名 国際文化学科 1名 【第2種】 情報処理学科 1名 国際文化学科 1名 【第3種】 情報処理学科 5名 国際文化学科 7名	16名
東海大学福岡短期大学 優秀学生奨学金（給付）	[2年生のみ] 情報処理学科 1名 国際文化学科 1名	2名
松前重義記念基金 留学生奨学金（給付）	[2年生] 情報処理学科 0名 国際文化学科 1名	1名
松前重義記念基金 短期大学（部）派遣留学生奨学金 （給付）	【短期留学】 情報処理学科 0名 国際文化学科 0名	0名
日本学生支援機構奨学金（貸与）	在学定期採用 第1種 0名 第2種 0名 次回以降採用者：該当者なし 臨時採用者：該当者なし	0名

2) アルバイト

アルバイトの斡旋については、1) 授業に支障をきたさない、2) 危険性を伴わない、3) 学生にふさわしい職種であることを条件として、企業から学生支援室に情報を提供していただき、学生ラウンジの掲示板で公開している。また、特に経済的に困難でアルバイトをしなければ学業を続けられないという学生には個別に相談にのっている。

3) 学割発行状況

近年は格安航空券、高速バス、インターネットでのチケット早期予約によるいわゆる「早割り」の利用が増え、学割の利用は減少している。発行状況は下記の通り。

	帰省	正課教育	課外教育	就職	見学旅行	傷病治療	保護者随伴旅行	廃紙	小計
4月					2				2
5月	2								2
6月									0

7月	1								1
8月									0
9月				2					2
10月	1								1
11月					1				1
12月									0
1月									0
2月									0
3月									0
合計	4	0	0	2	3	0	0	0	9

(4) 福利・厚生

1) 学生教育研究災害障害保険（財団法人 日本国際教育支援協会）

保険金が支払われる事故の範囲は、被保険者が在籍する本学の教育研究活動中に被った急激かつ偶然な外来の傷害。なお教育研究活動とは以下に定義される。

- (a) 正課を受けている間
- (b) 学校行事に参加している間
- (c) (a), (b)以外で学校施設内にいる間
- (d) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間（病気はこの対象とならない。）

2) 学生総合保障制度

この制度は、任意加入の保険制度で、入学試験の申請書類に同封し案内している。学生自身が災害を被った時、あるいは不注意により他人の身体や財物を害した場合などの加害事故を起こした時に、学生を救済する制度である。正課中はもちろんスポーツ中・課外活動・通学途中・アルバイト中など1日24時間補償するものである。

3) 学内環境

a. 食堂

学内には3号館1階に食堂があり、安価で栄養のバランスが取れているため利用者も多い。メニューは日替わり定食、日替わり丼、カレーライス、うどん、そばなどが中心で、平日の11時50分から12時40分まで営業している。食事スペースはもちろん、談話スペースとしても利用されている。

b. 体育館

本学体育館は「福岡コモンホール」と呼ばれ、1998年に建築された。2階は850平米のアリーナ、3階にはフィットネスルームがあり、16種類のマルチトレーニングマシンなどを設置しており、授業の合間や放課後の体力づくりに寄与している。なお、体育館1階は、付属第五高等学校の食堂や柔道部の寮となっており、管理も1階は高等学校、2・3階は短大とそれぞれで行っている。

4) 居住環境

本学は、寮を完備していないため、在籍者の3分の1（約50名程度）が大学周辺等のアパートを借りて学生生活をしている。最近では、入学者の減少によりアパートに住む学生数も減ってきているが、アパートの設備については、エアコンはもちろん家具付きに入居が集中するようになった。

紹介方法は、宗像に拠点を持つ不動産屋や家主さんから提供されたアパート情報を冊子にして、入学手続者の中で県外出身者に対してその冊子を配布し、直接契約していただいている。また、本学に来校した際に状況を聞いた上で不動産会社等と交渉する場合もある。

(5) 交通問題

学生の車に対する意識・感覚の変化とともに、運転免許の保有者も増大した。現代社会では、車なしの生活は考えられない社会状況になっている。また、飯塚・直方・鞍手方面から通学している学生は、自家用車で通学の方が通学時間の短縮にもなる。

こうした社会的背景を受けて学生の通学形態も大きく変化し、車両通学を希望する学生が急増している。こうした状況を鑑み、本学では1997年9月から、車両通学許可制度の実施に踏み切った。その許可条件には本学が学期毎に開催する交通安全講習会の受講を義務づけるなどの規程が盛り込まれている。今後は、この許可制度がしっかりと機能するよう学内における啓蒙活動、指導が大切といえる。

通学バスの運行について、本学の通学路には長い上り坂があり、例年行なっている学生アンケートの中でシャトルバス運行の要望があったため、後援会からの予算で2003年度から最寄りのJR赤間駅と本学までシャトルバスを3往路、2復路にて運行していたが、近年の利用者数の大幅減少に伴い、2014年度より廃止となった。

2017年度 車両通学許可件数

学期	四輪	二輪
春学期	3台	1台
秋学期	2台	0台

※学内駐車場利用料金：四輪 500 円／半期、二輪 500 円／2 年間

(6) 証明書発行状況

各種証明書の発行状況は下記の通り。

証明書名	発行枚数
在学証明書	25
在学証明書 (英文)	2
成績証明書	131
成績証明書 (英文)	20
卒業見込証明書	62
卒業見込証明書 (英文)	1
卒業証明書	132
卒業証明書 (英文)	10
在籍期間証明書	7
在籍期間証明書 (英文)	0
学生証再発行	0
単位修得証明書	2
計	392

(7) 健康推進室

1) 概要

健康推進室は、保健管理に関する専門的な業務を行い、学生および教職員の健康の保持・増進を図ることを目的とした施設として設置されている。

構成員は、室長（事務室長・兼務）、健康推進室は保健管理医（内科医・非常勤）1名、保健技術職員（専任）1名、学生相談室は臨床心理士（非常勤）1名である。

室長は両室の管理、調整に当たっている。保健管理医は月に1回来室し、健康診断、健康相談、その他保健管理業務を行っている。また、臨床心理士は週1回来室し相談業務を行っている。

2) 活動状況

年間の主要業務としては、学生・教職員の定期健康診断や健康診断再検査及び事後措置、入試等の救護を行っている。日常業務としては、応急処置、健康相談、保健指導、健康診断証明書の発行等を行っている。その他、保健管理医による健康相談を月に1回実施している。

その他、広報・啓蒙活動として保健関連書籍の貸し出し・保健ニュース等の掲示を行っている。

2017年	健康診断ガイダンス（学生）、定期健康診断（学生・教職員）
4月	健康診断再検査および事後措置
5月	健康診断再検査および事後措置（結果説明・結果配布）
6月	健康診断事後措置（結果説明・結果配布）、呼出面談
7月	健診事後措置
8月	学内行事等での救護、
9月	秋学期ガイダンス、
10月	要観察者定期検査、
	定期業務

11月	インフルエンザ予防接種学内実施（教職員対象）
12月	定期業務

定期健康診断

・学 生

実施項目

- | | |
|-------------------|-----------------|
| a. 身体計測（身長・体重・視力） | b. 胸部レントゲン撮影 |
| c. 血圧測定 | d. 尿検査（蛋白・潜血・糖） |
| e. 問 診 | f. 心電図（問診で指示者） |
| g. 内科診察 | |

受診状況（5月末まで：外部検診者含む）

	2年生		
	男	女	計
対象者（人）	24	44	68
受診者（人）	22	34	56
受診率	91.7%	77.3%	82.4%

・教職員

実施項目（35才未満）

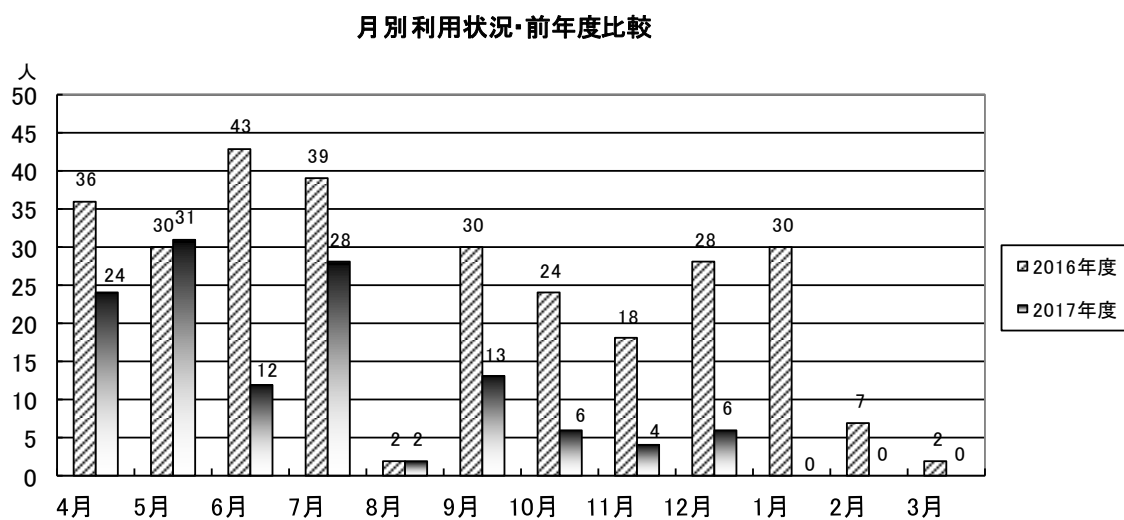
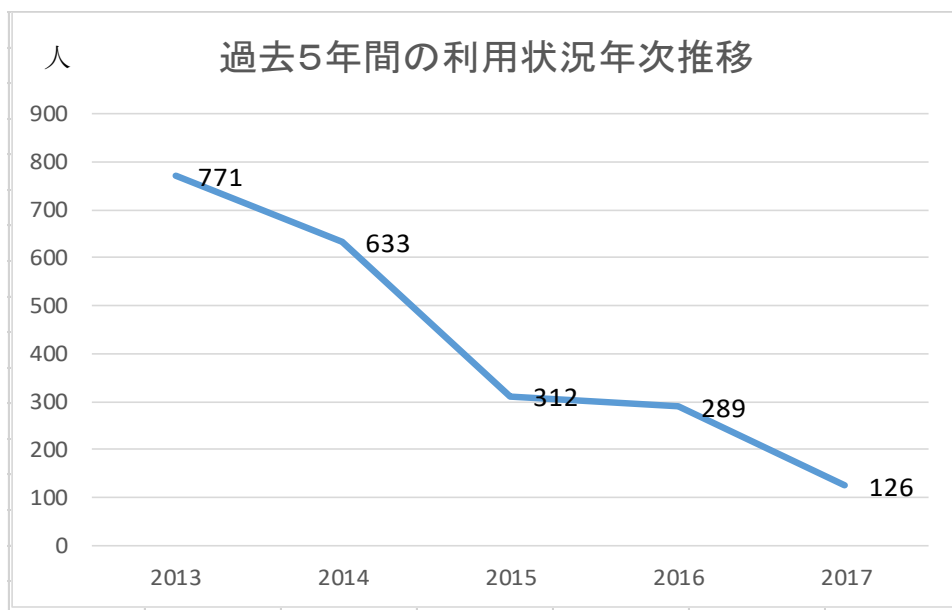
- | | | |
|-------------------------|--------------|---------|
| a. 身体測定（身長・体重・視力・腹囲） | b. 胸部レントゲン撮影 | c. 血圧測定 |
| d. 尿検査（蛋白・潜血・糖） | e. 問診 | f. 血液検査 |
| g. 内科診察 | | |
| （35才以上は上記 a～g および下記の項目） | | |
| h. 心電図 | i. 胃検診 | j. 大腸検診 |

受診状況

*非常勤講師1名含む

	教 員			職 員			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
対象者（人）	14	3	17	3	6	9	17	9	26
受診者（人）	14	3	17	3	6	9	17	9	26
受診率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3) 利用状況



(2017. 4. 1～2017. 12. 31)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	学生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	教職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	学生	2	7	0	1	0	0	0	0	0	10
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相談	学生	20	21	11	25	1	12	5	4	6	105
	教職員	1	3	0	0	0	1	1	0	0	6
	その他	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
合計	学生	23	28	11	26	1	12	5	4	6	116
	教職員	1	3	0	1	0	1	1	0	0	7
	その他	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3

科別処置件数

科	病院搬送	病院紹介	応急処置	保健指導	その他	合計
内科	0	0	2	0	0	2
外科	0	0	10	0	0	10
眼科	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	0	0	0	0
歯科	0	0	0	0	0	0
相談業務	0	0	0	0	114	114
合計	0	0	12	0	114	126

4) 今後の課題

2017年度該当なし

(8) 学生相談室

1) 概要

学生相談室の役割は、学生の悩みの相談や、将来設計の手伝いをして学生生活を豊かなものにするところにある。必要に応じて、心理面接、各種心理検査や適性検査も行なっている。相談業務を担当するカウンセラーは1名で、非常勤として学外から週1回来校している。相談時間は、水曜日の10時より

16時までとなっている。

学生相談室は健康推進室と同じセクションにまとめられていて、連携して学生の心身の健康維持に対処する体制がとられている。相談業務を担当するカウンセラーが非常勤の限られた勤務形態をとっているため、健康推進室で学生の動向を注意し、継続的なケアを行なっている。また一方で、身体的な訴えの裏に精神的な問題が潜んでいるケースの場合には、カウンセリングを薦め、カウンセラーが対処している。

相談の申し込みの手続きは、相談を希望する学生が学生相談室に直接出向いてくるか、または健康推進室に予約を申し込むシステムになっている。予約は直接申し込むことを原則としているが、電話、メールのいずれでも受け付けている。これらの手続きや相談日は、キャンパスガイドに記載すると同時に学生相談室の案内ビラにも書いて知らせている。また後援会資料にも案内が載せてあり、案内を見た保護者からの電話による相談も受け付けている。

学生相談室の場所は1号館2階の健康推進室隣りに位置する。場所については、健康推進室を利用している学生をよりスムーズに学生相談室につなぐことが出来るようになっている。ただし、人通りが多いため、入退出時には来談者のプライバシーの配慮が必要である。学生相談室専用の掲示板は廊下の目立つ位置に置かれていて、自然な状況で掲示板を見ることができるようになっている。

現在のところ、学生相談室は面接室を兼ねる1室のみであるため、ドアの外に面接中である旨の札を垂らして後から来る人に知らせている。またドアのすぐ内側に衝立てを立てて、中の人と後から訪ねて来た人とが不意に顔を合わせることをないように工夫している。来談者がいないときには、カウンセラーが在室である旨を表示するようにしている。なおカウンセラーが来校していない時や緊急時には健康推進室へ連絡してもらうようにしている。実際に学生相談室を利用しようとしている学生の中には、他人の目を気にする人もいるため、気軽に利用してもらうために十分な配慮が必要とされる。

2) 活動状況

a 心理検査

希望する学生を対象に、心理検査を実施している。備え付けの検査は以下の通りである。

性格検査	ストレス・チェック検査	その他の検査
・Y-G 性格検査	・STAI	・SDS 職業適性自己診断テスト
・クレペリン検査	・CMI 健康調査表	
・TAT	・SDS	
・東大式エゴグラム (TEG)	・CES-D	
・MMPI	・MAS	
・ロールシャッハ		
・PF スタディ		

このうちよく使用する検査は、東大式エゴグラム (TEG) で、これは交流分析の理論を元に5つの因子で形作られるパターンによって自我状態をとらえる質問紙テストである。60項目の簡単な質問に答えて得られるエゴグラムパターンを基に自画像の把握がしやすい。性格診断としてだけでなく、自己分析や行動パターンの修正・改善の指針をも得られるように工夫してある。

b 心理面接

心理検査や性格検査に関する面接の他に、継続的な面接による心理的サポートも行なっている。この心理面接で扱った主な内容は、健康面、対人関係での悩みについて等であった。近年、編入学や就職などの進路に関する相談が減り、健康面や対人面での相談が多く見受けられている。対応としては、生活リズムが崩れている学生も多く、本人とともに生活面の見直しを行う作業を行わない場合によっては病院を紹介することもある。また、対人面では経験不足の学生もおり、本人の主張を傾聴しつつ、相手の気持ちを代弁し、他者の立場を理解する視点などを持てるよう助言している。

c 本による啓蒙

本による啓蒙活動が行なえるように、学生相談室に本を揃えている。

学生相談室の本棚に備えてある心理学関係の書としては、次の通りである。

- ・雑誌「こころの科学」約 170 冊、
- ・性格や人付き合いの本など約 80 冊

・マンガなど心理学の読み物 24 冊, ・留学・編入学関係雑誌 5 冊

まだ蔵書数は多くないが、興味を覚えた学生には貸し出を行っている。ただし、学生の活字に対する親和性には個人差が大きく、本を借りていく学生の数は多くない。

d 広報活動

広報活動では、相談活動が特別なことではなく日常のものであるという認識を育てていくことが重要と考え努力している。本学での具体的な働きかけとして、今まで入学時や秋学期のガイダンスで学生相談室の存在をアピールしてきた。学生便覧や本学のホームページに学生相談室の案内を載せている。カウンセラーが面接の空き時間を利用して健康推進室に赴き、健康推進室に来た学生と自然な形で接するなどして信頼度を上げ、来談動機を高めるきっかけ作りをしている。

さらに、健康診断の心理的な項目にチェックした学生をスクリーニングし、面接につなげる積極的な活動も行っている。その際、大学の業務システムの“学生呼出”を使用し、呼び出しを行っている。この“学生呼出”は、カウンセラーの来学を知らせることに活用している。

3) 利用状況

平成 29 年度の来談件数は延べ 31 件であった。1 年間の相談件数を相談内容別にみると、表 2 で示しているように継続来談者の精神的健康のサポートがもっとも多く、その次に進路の相談が多かった。学業のみならず、アルバイトをしている学生も多く、勤務形態からか不眠を訴える学生もいた。今年度は卒業学年の学生のみであったため、進路がテーマとなるが多かった。

相談形態別では、表 3 に示すようにすべての相談は基本的に個人面接であり、心理検査の枠で東大式エゴグラム (TEG) を行ったのが 3 件であった。電話相談やネットによるメール相談も必要に応じ、対応できるようにしているが、今年度も電話相談はなかった。

来談者の内訳を性別でみると、31 件のうち、男子 1 件、女子 30 件で、例年同様男子が少なかった。

心理検査は学生の希望により実施することが多く、その結果は学生へフィードバックすることで、学生の自己理解、自己受容の資料として使われている。ただしその際、将来、問題を抱えた場合、学生相談を活用できるよう、簡単なオリエンテーションを行い、速やかな危機介入ができる体制作りに努めた。

4) まとめ

学生相談室は健康推進室と連携し、学生の心身の健康維持に対処することとしてきた。非常勤カウンセラー不在中は健康推進室で学生の動向を把握し、日常的なケアを行ってきた。しかし、週 1 日のカウンセラーの来校する時間を有効に活用するためには、学生相談室と健康推進室の緊密な連携や情報交換が欠かせないものである。健康推進室の隣の部屋を確保することが出来ており、カウンセラーの在室日に健康推進室を利用した学生を学生相談室につなぐ等、連携をかなりスムーズに行えるようになった。また、面接のない時間帯にカウンセラーが健康推進室に顔を出しやすくなり、学生相談室への来談動機を高めるきっかけ作りをすることも出来るようになってきた。

健康診断の心理的な項目にチェックした学生を呼び出すことを行っており、心理的問題を持つ学生を早期に発見し相談につなげる試みた。しかし、今年度は卒業学年の学生のみであり全学生数も少なく、呼び出しても来談する学生が少なかった。その一方で、継続的に関わることが出来た学生もおり、前半は健康がテーマであったが、後半は進路がテーマとなり継続的に支援を行うことが出来た。

また、今年度は教職員と連携して学生に対応するケースはなかった。

表1 2017年度来談者の月別延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
女	4	3	2	3	0	7	4	5	2	30

図1 2017年度来談者の月別延べ人数

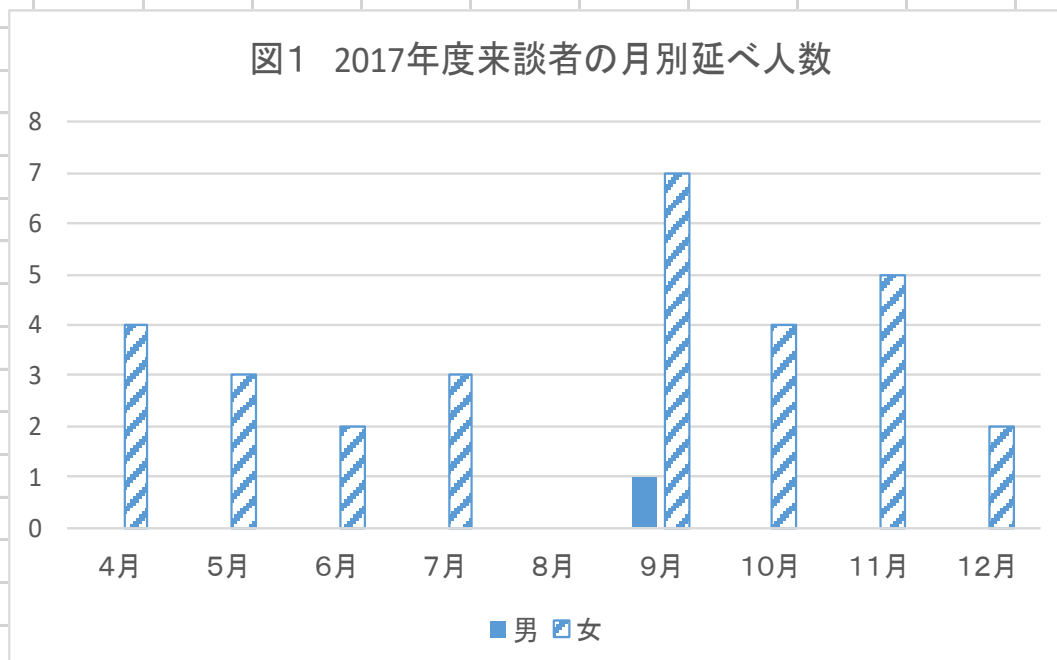


表2 2017年度相談内容別の来談件数（重複可）

相談内容	適性	性格	健康	進路	学業	対人関係	その他	合計
件数	0	0	23	8	0	0	6	37

表3 2017年度相談形態別延べ人数（重複可）

相談内容	心理面接			心理検査			合計
	個人面接	電話相談	代理相談	TEG	PFスタディ	CMI健康検査	
件数	25	0	6	4	1	0	36

(9) 学生生活支援に関する現状と今後の課題

2011年度より、学生支援室を3号館2階に設置し、見晴らしのよい2階フロアを「学生ラウンジ」として学生に開放した。学生同士の憩いの場として、2012年度にかけて様々な備品を整備した結果、自販機、アルバイト情報などの案内板、遊具（ビリヤード台、サッカー台）、大型テレビ、ソファ・テーブル、グランドピアノ、電子レンジ、給湯ポットなどの設置を行った。その後も学生ラウンジは、常時学生たちの憩いの場所として機能している。

なかでも、インターネット接続のテレビ利用が活発で、Kポップや外国ドラマなど多くの学生が楽しんでおり、2014年度利用者も増加している。今後も学生の福利厚生施設の充実に努めたい。

現状と今後の問題点としては、やはり学内での喫煙の問題がある。本学では、未成年者が多数を占めており、社会情勢に照らし合わせて敷地内完全禁煙を実施しているが、一部のベランダや部室近辺、グランド周辺で年間を通じて吸殻が見受けられるなど、前年度と比較すれば減少したものの喫煙者の違反が継続して見受けられる。学則で厳しい対応をしていくことも視野に入れながら、教育的指導の中でどこまで対応していけるかがここ数年の課題となっている。

学生相談については、2010年度よりeメールによる相談受付など、健康推進室との連携を図りながら運用したが、メールによる相談はほとんどなく、現実には学生の直接の健康推進室への訪問による相談に集中している状況が続いている。現在、担当の指導教員と健康推進室及びカウンセラー室が連携をとりながら、問題を抱えた学生への対応を行っているが、年々、心の病や不安を抱える学生の比率が高まってきており、健康推進室の負担が大きくなってきている。また経済的に厳しい状況を抱えた学生の比率も増加してきており、学費納金制度や奨学金制度の見直しなども今後の検討課題の1つとなっている。

なお、2014年度より廊下に「学長の意見箱」を設置し、学生の投書を可能にしたが、活用者は出ていない。

4. 進路の支援

(1) 進路支援のための組織体制について

本学では、学生の進路支援全体を統括する組織として、キャリア委員会を設けている。同委員会は、学生の進路全般を支援し指導することを目的とし、進路を担当する専任の教員と事務職員で構成されている。2014年度と同委員会の組織体制は、7名の委員で構成され、内訳は国際文化学科教員3名、情報処理学科教員2名、事務職員2名となっている。

同委員会の主な進路支援としては、以下のものがある。

- ① 進路（就職・進学）についての情報収集と分析
- ② 進路指導（進路相談、進路の斡旋、書類作成指導、面接指導など）
- ③ 両学科共通科目：初年次教育「キャリアプランニング」、補助科目：キャリア教育「キャリア研究A・B」（就職コース・編入コース）の立案と実施
- ④ 企業訪問・企業開拓の実施
- ⑤ 企業実習の企画と実施
- ⑥ 保護者との進路相談会の企画と実施
- ⑦ 学校推薦による就職希望者・大学編入指定校推薦希望者の選考
- ⑧ その他、進路についての支援全般

また、本学では学生生活全般における支援活動を全般的に担う部署として、キャリア委員の教職員が常駐する学生支援室を設置している。学生支援室の一機能として、進路委員の教職員が常駐し、主に企業からの求人や大学編入などの情報の公開、就職の斡旋、就職相談と指導、学生の進路動向調査、学生情報（進路登録カード、進路アンケート調査、受験報告など）の保管といった支援業務を行っている。

なお、学生の就職活動状況やその結果（内定・合格等）、学生支援室での指導内容等については、本学が運用する「学生カルテ（SRMS）」を通じて関係する教職員に配信され、教職員間における進路情報の迅速な共有化が図られている。

(2) 学生支援室における就職情報等の提供について

学生支援室の役割は多岐にわたるが、その中でも就職情報の収集と提供は最も大切な業務である。学生支援室では、短大に送付されてくる企業からの求人情報に加え、福岡県学生職業センターで公開されている求人情報のほか、九州各県の様々な求人情報を収集し学生に提供している。こうした求人情報は、学生の閲覧用としてプリントしたものを、各ファイルにまとめて学生支援室に設置し公開している（複写は無料となっている）。中でも、特に重要度の高い求人情報については、学内 Web サイトに求人票受付情報を随時公開し、希望する学生には、携帯電話のメール機能による求人情報の配信サービスも行っている。

また、企業情報については、学生支援室の書棚に約400社の企業を業種別にファイルにまとめて公開している。過去、学生が採用された企業のファイルには、年度別に色別のシールを貼り、会社の概要を記載したパンフレットとともに受験した学生の受験報告書（筆記試験や面接内容などが記載）を添付している。なお、個人情報の守秘義務により、学生名は非公開にして公開している。

そのほか、学生支援室では、就職説明会や採用情報に関する各種ポスターの掲示、各種就職情報誌、書籍（業界本、一般常識・SPI問題集など）を設置し、書籍の貸し出しサービスも行っている。一方、編入学を希望する学生に対しては、全国の主要4年制国公立大学および私立大学から送付されてきた編入受け入れ案内や推薦依頼をもとに、学生ポータルサイトの「編入情報」の項目に整理して掲示

している。特に、当該年度に全国の大学から届いた新しい編入情報は、表示の色を変えて内容を更新しているほか、推薦の募集だけ抽出したデータも用意するなど、学生にとってわかりやすくなるよう工夫を行っている。学生支援室内においても、各大学の募集要項や資料を公開しているほか、学生の希望に応じて、受験用資料や応募書類を学生支援室が大学から取り寄せている。

(3) 進路支援の内容について

1) 就職支援

学生の職業観の確立とともに、幅広い基礎学力と教養を身につけることにより「将来の人生設計を自分で考えることのできる能力」と「目標達成に向けた就職活動のノウハウ」を、「キャリアプランニングA・B」、「キャリア対策A・B」の授業を通じて養成している。具体的内容としては、就職状況や雇用環境などの理解、自己分析、小論文や作文の書き方、一般常識などの基本知識習得、就職活動のための企業研究、情報収集法、履歴書・志望動機などの書類作成支援、面接対策などである。希望する企業への内定を勝ちとるためには、短大の支援を待つのではなく、早期に就職活動を開始し、自主的な活動を積極的に展開できるかが極めて重要である。上記授業等を通じて、自主的な活動をフォローすると共に、学生支援室、キャリア委員会、指導教員等による学生個々へのきめ細かな支援を行っている。また、求人情報については、定期的実施する希望調査アンケート及び学生カルテ(SRMS)の情報をベースに、個々の学生に応じた適切な紹介を行っている。

2) 進学支援

東海大学を始めとした国内4年制大学への編入学や、海外留学(海外の大学への編入学や語学学校進学等)、専門学校への進学など、進学全般に対する学生指導・支援活動に関しては、就職支援同様、キャリア委員会が統括している。キャリア委員会の統括の下、実質的な教育指導を担当する進路対策科目群、4年制大学や各種学校に関する情報の提供、募集要項や受験記録の保管、書類の発送などの支援業務を担う学生支援室、そして、学生個々の希望や適性に関する情報収集と個別指導に責任を持つ指導教員が、それぞれ連携を図りながら支援活動を進めるという体制である。経済的な事情等により、卒業後の進路志望(就職・進学等)の途中変更は数多いが、上記のような連携体制によって充分に対応できている。

進路対策科目群のうち、「キャリアプランニングA」「キャリアプランニングB」では、短大卒業後もさらに学びを続けることを目指すにあたって必要な知識や姿勢を身につけることを目指している。特に授業プログラム中盤からは国内進学クラス(国大大学編入学・専門学校等)、海外留学クラスに分け、大学・留学先研究、目的意識の醸成、書類作成、学科試験対策、小論文対策、面接指導といった、実践的な指導がなされている。また、各学生が希望する進路に応じて、各専門の教員が自主的に開講している勉強会(小論文・英語・数学・情報・会計等)に誘導し、主体的な学修意識の向上を図っている。さらに、キャリア委員及びゼミの指導教員が、ゼミやオフィスアワーの時間を利用して学生個別の指導にあたっている。

そのほか、卒業後の進路として海外留学を希望する学生に対しては、上記進路対策科目群のほか、キャリア委員会及び学生支援室が窓口となって、学内の外国人教員や留学経験の豊富な日本人の教員との協力のもと、海外留学へのアドバイスや個別の指導を行っている。

(4) 企業実習

企業実習は実施していない。

(5) 進路決定状況

情報処理科 (過去3カ年)

(2018年3月31日現在)

区分		2015年度	2016年度	2017年度
a	卒業生数 (割合)	14人	20人	17人
b	就職希望者数	7人 (50%)	10人 (50%)	8人 (47%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	1人 (14%)	0人 (0%)	0人 (0%)
d	うち自己開拓分の就職者数	3人 (43%)	7人 (70%)	8人 (100%)
e	うち就職未定者	3人 (43%)	3人 (30%)	0人 (0%)
f	進学・留学希望者数	3人 (25%)	3人 (15%)	7人 (41%)
g	うち進学・留学決定者数	3人 (100%)	3人 (100%)	7人 (100%)
h	うち進学・留学先未決定者数	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
i	そのほか	4人 (29%)	7人 (35%)	2人 (12%)

国際文化学科 (過去3カ年)

(2018年3月31日現在)

区分		2015年度	2016年度	2017年度
a	卒業生数 (割合)	59人	62人	48人
b	就職希望者数	25人 (42%)	32人 (52%)	26人 (54%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	14人 (56%)	2人 (6%)	1人 (4%)
d	うち自己開拓分の就職者数	8人 (32%)	29人 (91%)	23人 (88%)
e	うち就職未定者	3人 (12%)	1人 (3%)	2人 (8%)
f	進学・留学希望者数	23人 (61%)	23人 (34%)	19人 (39%)
g	うち進学・留学決定者数	23人 (100%)	21人 (100%)	18人 (94%)
h	うち進学・留学先未決定者数	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (6%)
i	そのほか	11人 (19%)	9人 (14%)	3人 (7%)

※ 卒業生数は、各年度に卒業した学生数を示す (過年度卒業・秋学期卒業を含む)

2017年度 就職先 (業種別)

業種分類	情報処理	構成比	前年比	国際文化	構成比	前年比
鉱業・採石業	0	0%	±0%	0	0%	±0%
建設業	1	12%	+12%	0	0%	-3%
製造業	0	0%	±0%	5	24%	+18%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0%	±0%	0	0%	±0%
情報処理事業	1	12%	+12%	1	4%	-2%
運輸・倉庫業、郵便業	0	0%	±0%	3	12%	+2%
卸売業、小売業	1	12%	+12%	5	24%	-10%
金融業、保険業	0	0%	±0%	0	0%	-3%
不動産業、物品賃貸業	0	0%	-14%	0	0%	±0%
学術研究、専門・技術サービス業	1	12%	-2%	0	0%	±0%
宿泊業、飲食サービス業	1	12%	+12%	1	4%	-8%
生活関連サービス業、娯楽業	0	0%	±0%	3	12%	+2%
教育、学習支援業	0	0%	±0%	2	8%	+8%
医療、福祉	2	28%	-30%	0	0%	0%
複合サービス事業 (JA)	1	12%	+12%	0	0%	0%
その他のサービス業	0	0%	-14%	3	12%	+8%
公務	0	0%	±0%	0	0%	±0%
計	8	100%		23	100%	

2017年度 就職先（職種別）

職種分類	情報処理	構成比	前年比	国際文化	構成比	前年比
製造技術者	0	0%	±0%	0	0%	-3%
その他の技術者	0	0%	-14%	2	10%	+10%
情報処理技術者	1	17%	+17%	1	5%	+5%
保険医療従事者	0	0%	±0%	0	0%	±0%
事務	2	25%	-50%	4	17%	-9%
販売	2	25%	+25%	8	34%	±0%
その他のサービス	3	33%	+33%	8	34%	-3%
保安	0	0%	-14%	0	0%	±0%
建設従事者	0	0%	±0%	0	0%	±0%
計	8	100%		23	100%	

編入実績表（過去3カ年）

	2015年度		2016年度		2017年度	
	情報処理	国際文化	情報処理	国際文化	情報処理	国際文化
国公立大学	1	4	0	1	0	1
東海大学（学园内編入）	1	5	0	3	1	2
他の私立大学	0	13	3	15	4	11
小計	2	22	3	19	5	14
合計	24名		22名		19名	

編入実績表（2017年度詳細内訳）

進学状況	学部名	学科名	情報処理学科	国際文化学科
東海大学	国際文化学部	地域創造学科		1
	文学部	心理・社会学科		1
	経営学部	経営学科	1	
琉球大学	法文学部	国際言語文化学科		1
久留米大学	文学部	情報社会学科	1	
		国際文化学科 国際文化専攻		1
中村学園大学	流通科学部	流通科学科	2	
九州産業大学	経営学部	産業経営学科	1	1
	商学部	観光産業学科		2
九州国際大学	経済学部	経営学科		1
慶熙大学	生活科学学部	衣装学科		1
培材大学	ハワード学部	グローバル言語ビジネス学部中国学科		1
		TESOLビジネス英語学科		2
	キムソウォル学部	グローバル観光ホテル学部		2

(6) 進路指導全般に関する現状と今後の課題

就職に関しては、新規学卒者の就職状況は少しずつ回復の兆しが見え始めたものの、実際、短大に送られてくる企業の求人は増加しておらず、その数少ない求人に対して四年制大学出身者とも競合しており、本学学生にとって相当に過酷な情勢にある。2017年度は、短大に送られてくる求人票に限らず、リクナビ、マイナビ、学生職業センター、ハローワークといったインターネットの就職情報サイトを中心に、求人情報誌、新聞の折り込みチラシなどあらゆる就職情報の媒体を活用しながら、就職支援を行ってきた。その甲斐もあって、最終的な就職決定率としては、昨年度からさらに改善が見られた。なお2017年度に向けた対策として、教職員側からのややもすれば一方的になりがちな指導だけに頼ること無く、学生個々の状況に対応しながら、学生の主体的な活動を促すための方策を矢継ぎ早に打ち出していく必要がある。方向性としては、後援会・同窓会（OB/OG）との協力関係を基軸に、より身近な実務社会の姿を体感する機会を創りあげていくことを検討している。

進学、特に4年制大学への編入に関しては、今年度も決定率100%を達成することが出来た。特に国公立大学や近隣の私立大学のうち、高いレベルを要求する大学への進学実績を示せたことは大きな成果である。

しかしながら、全体的に見ると、大学編入に関する目的意識の希薄な学生は増加傾向にある。事実、受験計画から出願、受験指導まで、手取り足取りの指導を求める（必要とする）学生も多い。このことは、編入学指導の人的コスト増加だけでなく、学生の編入後の学修や卒業後のキャリアにも悪い影響を与えるものとして、大きな問題だと認識している。キャリア委員会としては、この問題への対応策として、学生相互の教え合い・刺激の与え合いによって学生の主体性を惹起することを、進路対策科目群の内外で実現していく方針である。その他、入学早期からの志望先調査や、志望分野と関連の深い科目の学修、授業外学修活動を促進していくことにより、進学希望先のミスマッチ解消を図っていきたい。さらには、大学編入試験に合格することだけを目標にするのではなく、編入後、さらに実力を伸ばしていけるだけの素地を育んでいきたいと考える。

次に、海外の大学への編入学について、今年度6名（培材大学校5名、慶熙大学1名）合格している。また、語学留学は4名（韓国4名）であった。留学を本学卒業後の進路として考えることについて、学生のニーズとしては増加の兆候も見られるが、キャリア委員会としては、卒業から実際の渡航・入学までのタイムラグ（9月入学のケースも多い）もあり、卒業後（留学後）のケアをどのように行うべきか、本学の役割について再考する必要があると認識している。

その他、専門学校を志望する学生は毎年一定数存在するが、今年度も個別指導の徹底がなされ、専門学校の特性やリスクについて十分理解した上で送り出したものと考えている。

5. 多様な学生に対する支援

多様な学生の受け入れ状況

種別	2015年度	2016年度	2017年度
留学生（人）	3（0）	2（0）	-
社会人（人）	0	0	-
障害者（人）	1	0	0
科目等履修生（人）	8	15	5

※カッコ内の数値は当該年度秋学期入学生 ※科目等履修生は春・秋の延べ人数

基本的に、すべての学生への指導や支援は、担当する指導教員を中心に行われる。しかし、特に留学生等の指導に関しては、指導教員個人では対応できる範囲を超えているので、語学担当のネイティブの教員、また特に生活指導に関しては、学生委員会及び担当の事務職員も加わり、多くの教職員が同時に関わりを持つ体制で支援活動を行っている。また、次に紹介する「学生カルテ」内で情報を共有し、だれが、いつ、どのような指導を行なったか、即時に周知できる体制になっている。

6. 特記事項

(1) 学生カルテ

本学では、1999年より学生カルテ（Student Relationship Management System / SRMS と略称）を自己開発・運用している。

1) 学生カルテの目的と開発

本学では、学生の夢と希望をかなえるため、教職員全員での指導体制をとっている。従来の「指導教員のみが指導にあたる」から「部署や業務分掌を超えての指導を行う」に体制を変化させてきた。ここで重要なのは、短期大学は在籍期間が2年間と短いため、的確な指導をリアルタイムに行う必要があることである。その実現には、全学的な規模での情報共有が不可欠であり、その情報共有をサポートするシステムが求められる。そのような中で学生カルテシステムが誕生した。

今日では学生カルテシステムを本学の教育システムの中核とし、学生の生活面から学修指導、進路指導まで幅広く全学的に活用している。その活用の中で、学生を的確に指導できるかのポイントは、システムの存在そのものよりも、それに蓄積される情報の数と有効性・リアルタイム性、さらにその情報がいかに活用されるかという点にある。すなわち、システムとその運用スタイルの両立が重要である。

学生カルテは3つに大別して学生情報を管理している。1つ目は学生の学修情報である。学修情報はさらに教科別に管理されており、受講状況、出席状況、学修の進行状況などを記録する。また、eラーニングによる開講科目については、メンタリングやその他の学習指導状況などの記録を義務付けている。二つ目は進路情報である。学生の進路希望や指導内容、及び学生個々の就職・進学活動の履歴などを記録している。三つ目は生活情報である。先の2つに分類されない情報をここに記録する。例えば、資格取得情報、サークル活動、そのほかイベント等への参加状況など様々である。

また、一般的に学生カルテと呼ばれるものは、学生の成績が記録されている場合もあるが、本学の学生カルテには最終成績（評価）は殆ど記録されていない。なぜなら成績は結果であり、その結果を得た後での指導では遅すぎるからである。あくまでも我々が重要と考えるのは、その結果になるまでの途中経過をリアルタイムに知ることであり、その途中の段階で指導を行う必要があるからである。このような観点から、学生カルテに記録する上記3つの項目はすべてテキスト形式となっており、記録者の主観を書き込むようになっている。

2) 学生カルテ運用の効果

学生カルテ運用の最大の効果は、学生の学修状況・生活状況の把握が容易かつ広範囲になったことである。この活用により、その学生が履修している科目全体にわたり学修状況が把握できる。従来は教員間の個人的なつながりによってのみ成立していた学生情報の共有が、大学の教育システムとして組み込まれたことにより、指導を要する学生の早期発見が容易になった。

学生カルテによりどの学生が、どの教職員からどんな指導を受けているのかが把握できるようになり、教職員間で共通認識のもとでの学生指導ができる。学生も、教員間の指導の違いによる困惑がなくなる。これにより、学生から教員・大学への信頼度向上が期待できる。

年に1・2回実施される保護者との懇談会でも、学生カルテの情報を参照しながら行うことにより、的確に行えるようになる。特に、県外で実施される懇談会では、指導教員が参加するとは限らず、このようなケースでも学生カルテが有効に活用されている。同様に、日常的に、保護者からの問い合わせに対応できるようになる。さらに、保護者からの信頼度向上も期待できる。

3) 運用実績

2017年度の学生カルテの利用実績（情報登録のみ）は、次のとおりである。

適用	情報処理学科	国際文化学科	事務職員
生活情報	648	179	60
学習履歴	1136	1513	2
進路指導履歴	397	202	0

データ登録数の推移

年度	在籍数	登録						参照								
		生活	学修	進路	生活/人	学修/人	進路/人	一括	生活	学修	進路	一括/人	生活/人	学修/人	進路/人	
2000	508	747			1.5											
2001	417	528			1.3											
2002	368	675		114	1.8		0.3									
2003	337	595		446	1.8		1.3									
2004	310	657	9	705	2.1		2.3									
2005	341	2742	1228	739	8.0	3.6	2.2									
2006	340	1992	2080	1229	5.9	6.1	3.6	3398	632	792	971	10.0	1.9	2.3	2.9	
2007	303	1229	3595	1060	4.1	11.9	3.5	3852	506	776	499	12.7	1.7	2.6	1.6	
2008	305	1365	4097	1077	4.5	13.4	3.5	3555	458	525	407	11.7	1.5	1.7	1.3	
2009	246	1414	2674	875	5.7	10.9	3.6	5233	264	373	292	21.3	1.1	1.5	1.2	
2010	204	1267	2164	706	6.2	10.6	3.5	3919	283	238	293	19.2	1.4	1.2	1.4	
2011	191	1757	3131	668	9.2	16.4	3.5	3050	200	260	195	16.0	1.0	1.4	1.0	
2012	166	1016	2871	419	6.1	17.3	2.5	12564	216	373	198	75.7	1.3	2.2	1.2	
2013	155	1621	2511	818	10.5	16.2	5.3	16674	443	273	302	107.6	2.9	1.8	1.9	
2014	178	1812	2080	930	10.2	11.7	5.2	18036	455	351	321	101.3	2.6	2.0	1.8	
2015	215	1499	4650	1145	7.0	21.6	5.3	14834	659	395	467	69.0	3.1	1.8	2.2	
2016	197	1612	5787	1050	8.2	29.4	5.3	14175	1080	921	860	72.0	5.5	4.7	4.4	
2017	82	887	2651	692	10.8	32.3	8.4	5203	589	603	1270	63.5	7.2	7.4	15.5	

SRMS 運用開始後から 2017 年度(2018 年 1 月 19 日現在)までの登録情報数の推移を示す。2005 年以降「生活」に関する情報数が減少しているのは、2005 年に新規に「学習」の категориを新設し、従来「生活」に登録していた情報が「学習」に記録されるようになったためである。学生一人あたりの登録情報数は年々増加している。

※ 表中の-は、その機能未整備あるいはログ未調査を意味する。

(2) 成績不良者への支援

本学では、入学時より少人数での指導教員制度をとっている。これまで指導教員は、学生一人ひとりの学修面・生活面を把握し、1 年次は「フレッシュマンゼミナール」、2 年次は「卒研ゼミナール」の授業時間等を利用して指導にあたっていたが、2012 年度入学生より授業以外での指導教員の役割を明確化し、2014 年度もその流れを継続した。成績不良者や欠席が目立つ学生に対しては、その原因を探り、科目担当教員や健康推進室と連携を取り、学科会議での報告などで出席状況の改善を図っている。度重なる指導にも応じない場合は、単位不足とならないよう保護者も交えて指導することもある。成績不良者のなかには、留学生など経済面での支援の必要がある学生や、生活面で改善努力を必要とする学生、さらには心身面で問題のある学生など、その要因については学生個々により異なるため、指導教員と他部署、科目担当教員、健康推進室との連携を大に行った結果、早期に進路変更を行った者が 3 名、残りの学生は全員卒業するに至った。

(3) 学生に対する表彰制度

本学では課外活動や資格取得等で、顕著な成績を残した学生を建学記念式典で表彰している。また、学位授与式では、在学中に成績・人物共に優秀な学生を総長賞・学長賞として表彰している。過去の総長賞・学長賞表彰内容は次のとおり。

受賞項目	学科	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
東海大学 総長賞	情報処理学科	崎山 亜美	大久保 洋平	該当者無し	該当者無し	新田 あかね
	国際文化学科	李 侑香	下田 奈菜	新口 ありさ	田中 瀬根奈	儀保 碧
東海大学 福岡短期大学 学長賞	情報処理学科	末武 弓佳	松尾 晴香	該当者無し	該当者無し	蔵野 涼 後藤 廉
	国際文化学科	西 真奈美 岩崎 美香	阪口 真衣	三苦 友紀	箱崎 美紗季	嗟峨根 凌太 河村 文美華

(4) 学生生活に関する学生の意見や要望の聴取（大学評価アンケート）

本学に対する満足度について、学生による「大学評価アンケート」を毎年度末に1回実施している。2017年度の集計結果は次のとおり。（その他、記述式の設問も有り）

2017年度 学生による大学評価アンケート集計結果（アンケート回収：48/60）

学 科 別	情報処理科	10	国際文化学科	38
性 別	女性	31	男性	17
学 年 別	1年	0	2年	48
出 身 学 校 別	公立高校	20	本学付属	18
	本学付属以外の私立	8	その他	2
入 試 種 別	AO入試	15	一般入試	1
	推薦入試	10	給付奨学金入試	5
	付属推薦入試	15	その他	2
住 居 形 態	自宅	32	自宅外	16
所 属 団 体	学友会役員	7	クラブ・サークル参加	16
	その他行事委員	1	その他	24

※▼印部分は昨年度の数値より低い項目	17 平均	情報処理	国際文化	16 平均
Q2. これまでの学生生活で次の点をどのくらい重視していますか				
①専門的な知識や技能を修得すること	4.06 ▼	4.00	4.08	4.08
②資格を取得すること	3.60 ▼	3.60	3.61	3.82
③交友関係を深めること	3.92	3.60	4.00	3.61
④教養・人格を高めること	3.98	3.30	4.16	3.69
⑤学業外の活動に取り組むこと	3.27 ▼	3.30	3.26	3.60
Q3. 上で取り上げた項目について、あなたが感じる達成度はどの程度ですか				
①専門的な知識や技能を修得すること	3.69	3.70	3.68	3.41
②資格を取得すること	3.38	3.50	3.34	2.90
③交友関係を深めること	3.90	3.60	3.97	3.60
④教養・人格を高めること	3.58	3.30	3.66	3.35
⑤学業外の活動に取り組むこと	3.46	3.60	3.42	3.21
Q4. 次の項目について、授業に対する満足度は総合的に考えてどの程度ですか				
①好きな勉強ができる	4.13	4.10	4.13	3.92
②専門的な知識や技能	3.94	4.00	3.92	3.84
③授業内容(カリキュラム)	3.90	4.00	3.87	3.46
④資格取得に役立つ	3.69	4.00	3.61	3.54
⑤実習室等の活用	3.85	4.10	3.79	3.75
⑥教え方	3.79	4.10	3.71	3.56
⑦教員の熱意	3.81	4.00	3.76	3.74
Q6. 次の項目について、施設設備に対する満足度は総合的に考えてどの程度ですか				
①学内の雰囲気	3.71	4.00	3.63	3.43
②学園行事(建学祭等)	3.40	3.10	3.47	3.00
③クラブ・サークル活動	3.23	3.00	3.29	2.96
④人間関係(友人)	4.13	3.90	4.18	3.75
⑤図書館職員	3.90	3.90	3.89	3.88
⑥事務室職員	3.88	4.00	3.84	3.79
⑦学生支援室職員	4.08	4.00	4.11	3.78
⑧健康推進室(カウンセリング)職員	3.92	3.80	3.95	3.86
⑨コンピュータ実習室	3.98	4.20	3.92	3.86
⑩指導教員	4.15	4.40	4.08	3.88

①キャンパス	3.54		3.60	3.53	3.22	
②大学周辺の環境	3.31		3.80	3.18	2.96	
③食堂	3.25		3.20	3.26	2.98	
④図書館(閲覧室・ラウンジ)	3.75		3.90	3.71	3.72	
⑤学生ラウンジ	3.96		4.00	3.95	3.58	
⑥コンピュータ実習室	4.00		4.30	3.92	3.83	
⑦コモンホール トレーニングルーム	3.70		3.60	3.73	3.62	
⑧コモンホール アリーナ	3.74		3.50	3.81	3.67	
Q7. 次の項目について、本学全般に対する満足度は総合的に考えてどうですか						
①交通の便	3.40		3.40	3.39	3.05	
②教職員とのコミュニケーション	3.88		4.10	3.82	3.71	
③OB・OGとの交流	2.85		3.30	2.74	2.74	
④学費	3.13		3.40	3.05	2.85	
⑤校風	3.44		3.60	3.39	3.22	
Q8. 入学前と現在とを比較して、本学に対する期待は総合的にどうですか						
①本学に対する期待度	3.67		3.80	3.63	3.27	
Q9. 講義・実習における1コマの授業時間について						
①現行の授業時間(80分) で適当かどうか	3.88	41	—	8	33	87
	2.85	3	—	1	2	8
	3.13	2	—	1	1	13
Q10. 卒業後の進路について、どのように希望しているか						
① 正規の社員として就職	27	—	4	23	59	
② 契約・派遣などの社員として就職	0	—	0	0	6	
③ 自営業・家業に就く	1	—	1	0	3	
④ 四年制大学に編入・進学	15	—	3	12	30	
⑤ 専門学校に進学	3	—	2	1	3	
⑥ その他	2	—	0	2	10	

7. 自己点検・評価

2017年度の大学評価アンケート集計結果によると、本学に対する学生の評価は、前年度と比較して、U2の①・②・⑤の項目を除き、全ての項目で評価が向上した。特に、評価が4点台と高い評価となった項目は、Q2の①専門的な知識や技能を修得すること、Q4の①好きな勉強ができる、Q5の④人間関係(友人)、⑦学生支援室職員、⑩指導教員、Q6の⑥コンピュータ実習室であった。本結果については、本学の学び(特に語学教育やICT教育)の自由度、及び小さな短大ならではの教職員による教育・学生及び進路指導体制が高い評価につながったものと考えられる。